

(編者注) *Sois belle, sois triste.* は、佐藤春夫纂輯による芥川龍之介遺稿詩集『澄江堂遺珠』(昭和8年3月岩波書店刊)の副題で、詩稿の欄外に書かれた芥川のメモ。実際のメモはS以外は筆記体で、*Sois belle, sois triste* ト云フ と書かれている。フランス語で「美しかれ、哀しかれ」の意。もとはといえばボードレールの「悲しいマドリガル」(Madrigal triste) 中の一節。

澄江堂——雪

小川 和佑

右手にペンを握ったまま、左手を伸ばして
緑のスリーキャスルの缶から煙草を一本引き
抜いた。雪が降って来たらしい。澄江堂はそ
のまま眼を閉じた。

かそかに雪のつもる夜は
折り焚く柴もつきやすし
低く口誦んでみた。それから、火をつけな
かった煙草を投げ捨てると、彼はノートにペ
ンを走らせはじめた。雪はますます遠い琴唄
のような音をたてて夜の田端に降りしきった。
詩稿は次つぎと同じ主題を繰り返して書き
継がれていった。

幽かに雪のつもる夜は
ココアの色も澄やすし
こよひはひと冷やかに
ひとり寝よとぞ祈るなる

そこまで書くと、連想は不意に拡がり、叢
竹の葉ずれの音や、水辺の花の揺らぎが絵の
ように拡がった。澄江堂三十歳の大正十一年
の大つごもりの夜更けである。

後世の研究者たちはこの詩帳の未完成詩稿
から澄江堂の恋人についてさまざまな想像を
逞しゅうした。人妻秀しげ子の後に再び彼は
ひそかに人を愛したのか。はたまたこれは遠
き日の吉田弥生への想いなのかと。

しかし、残された詩は次のような一編に完
結した。

初夜の鐘の音聞ゆれば
雪は幽かにもるなり
初夜の鐘の音消えゆけば
汝はいまひとと眠るらむ

雪はまだ降り続けている。澄江堂は不意に
振り向いて読者に片眼をつぶって見せた。や
がて、机の上の煙草を取り上げると、火をつ
けて深かぶかと吸い込んだ。「*Sois belle,*
sois triste...」それが詩というものや」

汝=な (原文ふりがな)

秀=ひで (原文ふりがな)

※缶→原文では「金」へんに「缶」

出座：昭和62年(1987)9月20日(日)第25回座会(神田神保町・五十嵐ビル)
初出：昭和62年(1987)10月号「短説」(通巻27号)
初刊：昭和63年(1988)7月1日『青いうたげ』昭和六三年度 年鑑短説集(第二巻)
再録：令和6年(2024)3月29日ブログ版「小川和佑先生著書目録」(海とユリ社刊)
<<http://ogwkzsk.blog.fc2.com/blog-entry-103.html>>
再録：令和6年(2024)9月20日「小川のせせらぎ／小川和佑ゼミナールOB会誌」第3号
Copyright (C) 1987 Ogawa Kazusuke All rights reserved.